

議長定例記者会見 会見録

日時：令和6年1月16日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

能登半島地震について

県議会として今年注力していきたいこと

若者の県議会への関心について

派閥の政治資金パーティーを巡る問題について

新年の抱負について

議長の任期について

文書管理について

議長・副議長の会派籍について

1 冒頭の挨拶

（議長）新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。ただ今から1月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。まず、はじめに、元日に発生しました能登半島地震で亡くなられた方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々にお見舞いを申し上げます。令和に入って最大級の災害であり、非常に大きな被害状況となっております。被災地の一日も早い復旧・復興を心から願っております。私は、全国都道府県議会議長会の副会長でもありますので、会長をはじめ、他の役員の皆さま方と相談しながら、全国都道府県議会議長会としても、被災地の復旧・復興を応援していきたいと考えております。では、新年を迎えまして、一言申し上げたいと思います。まず、1月18日から令和6年定例会が開会し、2月19日から、2月定例会が始まります。ここでは、令和6年度当初予算についての審議が中心になるかと思います。年末に知事に申し入れも行った、子どもを守り育てる取り組みはもとより、防災・減災や観光振興の取り組み、カーボンニュートラルの取り組みなど、さまざまな課題にしっかり対応していくものになっているのか、慎重に審議する必要がありますので、全議員が、本会議、委員会を通じて活発に議論できるよう、副議長と共に議会運営に当たっていききたいと思います。また、現在、食料自給総合対策調査特別委員会や、子どもに関する政策討論会議、再生可能エネルギーに関する検討会で議論を続けています。それぞれの委員会等でさらに議論を深め、実りあるものにしていききたいと思います。

ます。今後も全議員が、県民の皆さまの負託に応えるべく、懸命に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。今年最初の記者会見ですので、副議長からもお願いしたいと思います。

(副議長) 改めまして、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。議長からもございましたけれども、まずは、能登半島地震で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々にお見舞い申し上げます。それでは私は広聴広報会議の座長という立場でございますので、広聴広報について、ごあいさつを申し上げたいと思います。今年の広聴広報の取り組みは、昨年引き続き、特に若者の政治への関心を高めることに注力をしてまいりたいと思います。現在、2月には、若者を参加者とする第2回みえ現場d e県議会の開催を、また、年度が変わった、8月には、みえ高校生県議会を開催すべく、今、準備を進めているところであります。次代を担う若者たちに県議会への理解を深めていただくとともに、皆さんの意見を議会での議論に反映することができるよう、政治を自分事として捉えてもらうきっかけにさせていただけるよう取り組んでまいりたいと思っております。改めまして申し上げますまでもございませんが、広聴広報の取り組みは、開かれた議会を実現する上で大変重要なものであると実感をしているところであります。今後も若者をはじめ、多くの県民の皆さんが、県議会の活動に関心を持っていただけるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、記者クラブの皆さまにも、変わらず今年もご協力を賜りますようお願いを申し上げます。私からは以上でございます。

(議長) 私どもからは以上でございます。よろしくお願いいたします。

2 質疑応答

能登半島地震について

(質問) まず能登半島地震の関係ですけれども、全国都道府県議会議長会の副会長の立場としてという発言がございましたけれども、具体的に、全国都道府県議長会としてどのような取り組みができるか、また、想定していらっしゃるかとお願いいたします。

(議長) ご案内のとおり私は東海北陸7県から推挙された副会長でもあります。全国議長会の会長が富山県の山本議長さんでございますので、被災されている側という立場でございますので、このことを鑑みますと、副会長の中でも私が積極的に取り組まなくちゃいけないかなとの自覚のもと、早速、まずは一日の夜ですけれども、発災後すぐに山本富山県議会議長、それから石川県の議長、

福井県の議長、さらに新潟県の議長、4県にまず電話連絡をさせていただき、あいにく石川県焼田議長さんにはその日は通じなかったわけでありませうけれども、他の3名については、夜に連絡がつくことができました。また発災直後でしたので、詳しい情報は分かりませんが、非常に厳しい状況については、それぞれの議長さんからお話ありました。中でも、議長からすれば、それぞれの県には、各県議会議員がおられますので、その選挙区の議員からも情報を入れながら、議会としての取り組みをしているという様子が伺えました。しかし、発災後少し数日経ってから具体的に、3日後にも再度電話連絡ですけれども、石川県焼田議長さんにも連絡をとれまして、様子が少しずつ判明してきたわけでありませう。報道関係の様子と相まってですけれども、私は全国都道府県議会議長会の事務局、総長さんにお話させていただいて、過去の例を参考にしながら、熊本地震のときもそうですけれども、全国議長会から政府に緊急要請をした経緯がありますので、今回もその必要があるのではないかなと、一刻も早くした方がいいのではないかと、このようなこともさせていただきながら、1月末に当初から予定されております全国都道府県議会議長会議が予定されておりましたので、その場であるのか、その前にするのかということも含めて、相談を投げかけさせていただき、早速、事務局の方から動いていただきました。もちろん、山本富山県議会議長、全国の会長さんから、中森さんありがたいですなということで、早速動いていただいてというお言葉いただきましたけれども、焼田石川県議会議長さんからすれば、まだまだ十分その詳細が分かりにくいのでというような、もう少し時間がほしいというような雰囲気が出てましたので、それは私の方から差し出がましく、あまり事はできませんでしたので、全議の事務局に一任をしまして、少なくとも月末26日には全国議長会の総会が予定されておりますので、それまでには何らかのアクションについて、具体的にどのような行動をとるかということが確認されるというか、進められるだろうと今思っております。

（質問）緊急要請の件ですけれども、過去ですと、例えば東日本大震災とかのときに緊急要請が行われているんですか。例えばどのような要請だったんですか当時。

（議長）過去の例を参考にさせていただいたら、タイミングもあるんですけれども、激甚災害の指定はもとよりということで、激甚災害はすでに閣議決定されている事項でございますので、それ以外、生活必需品の安定的・継続的な供給だとか、生活再建の支援であったり、各種産業、農林水産業などの産業の支援などを、幅広く要請していく必要があるのではないかなと。このように過去の例を参考にしながら、今回、実情に合った、現場に合った内容にまとめよう

とされております。

(質問) 石川県さんの方は、まだまだ詳細が分かっていないということですが、要請自体は1月中にはしたいという感じですか。

(議長) 今、私の方でここで決定するとか、できるということは表現できませんけども、お願いしている段階でございます。事務局に一任をして詳細を詰めていただいている状況ですので、今申し上げられることは、26日の全国の全体の総会で、何らかの日にちも含めて、内容も含めて、整理ができるんじゃないかと、決定していくものと推定されます。

県議会として今年注力していきたいこと

(質問) 県議会の定例会についても、あと定例会議についても言及がありましたけれども、さまざま並べてはいただいておりますけど、特に今年注力していきたいこと、定例会にかかわらずこの県議会全体として、議長としてどのように考えてらっしゃいますか。

(議長) 私が就任して以来、常任委員会はそれぞれ当然毎年のことという具体例は申し上げるまでもないんですけども、特別委員会を設けたということとか、政策討論会議を設けたということ、それから検討会を設置したということ、この点が特色化されるのではないかなと思われま。内容はもうすでに皆さま方にご紹介してますので、私が座長をしてるものについては、もうすでに昨年末に、第一陣というんですか、緊急の部分については申し入れをして、当初予算にも反映していただけたものということも十分確認をしたいなと思っておりますけれども、3月末までに中長期的なことも含めた全体的な子ども支援に関わる三重県議会の意見をまとめた上で、県の執行部にしっかりと対策を講じていただきたい、子どもに対する支援をお願いしたいということ、3月末に提出し、これからの県の施策に反映していただきたいと思ってるところは、重点的なものかと思っております。

若者の県議会への関心について

(質問) 若者が県議会に関心を持つように注力したいとおっしゃったんですけども、今、これ若者なかなか県議会に関心持ててない、これ、なぜでしょう。

(副議長) 議会での議論の内容ですとか、政治が果たしている役割やその重要性などが、若者の身近な暮らしであるとか、将来の社会にどんな影響を与えるのか、そのあたりのところが、実感を持って伝えきれていないところにあるの

ではないかと思っています。ですので、まずは議会の議論の内容でありますとか、そのことによってどんなふうに暮らしや、自分が教育を受けるところにいるとすれば、そういう学校教育であるとか、自分の将来に関わっているのかっていうことを、理解していただき実感していただくような、まずは情報発信、一人一人に届くような情報発信、そのあたりのところをしていく必要があるんじゃないかなと思っています。

(質問) 今も情報発信はしてると思うんですけども、新たな工夫などがあるんでしょうか。

(副議長) 今、広聴広報会議で議論をし始めているところで、もっと直接的に若者、特に高校生あたりに情報発信ができないかというあたりのところは、今、議論をし始めているところです。

(質問) 高校生に情報発信ってどういう意味ですか。

(副議長) 高校生県議会をずっと2年に1回開催してきております。その中で発信し、向こうからの意見を聞く中で、こんなふうにやっていけばもっと、特に高校生たちの政治への関心が高まるんじゃないかっていうことを、広聴広報会議の中では捉えております。ですので、高校生県議会に参加をしていただくということをきっかけにしたり、それ以外にももっと高校生たちに何かのツールを使って情報発信できないかというようなところを考えているところです。

(質問) 議長いかがですか。

(議長) 副議長が申し上げたとおりでございますけれども、確かに主権者教育は十分されているのかなとか、それから投票率を見ても、18歳になったとき、やっぱり投票に行ってくれる若者がいるのかなと思いきや、19歳20歳がちょっと投票率が下がっていることについてはやや心配しております。いずれにしても、そういう投票行動だけが政治に関心あるだけではないと思いますので、普段からやはり政治に関する仕組みであったり、例えば高校生にしても、学校に、例えばこういうよく聞かれるんですよ、運動場こういうふうにしてほしいとか、暑いのでエアコン入れてよと、こんな簡単な質問があるんですけども、結局それも政治で、もちろん国の補助金をいただいて、県で、また、県立はもちろん県で、小中学校は設置者が必要な予算を確保しながらやってることを説明すれば、高校生もああそうかなということ、私の知る限りそういう高校生がいました。そういうことから関心持っていただくのが大切かなと平素か

ら思っています。

派閥の政治資金パーティーを巡る問題について

(質問) 派閥の政治資金パーティーのキックバックの関係で質問するんですけども、今国会の方では政治刷新本部が開かれて、政治資金収支報告書の改正も視野に入ると思うんですけども、これは全議員に絡む話だと思うんですけども、改めてこの刷新本部に望むことと、刷新本部の中に地方議員が1人も入ってないと思うんですけども、この人選について何か、議長として思うことがありましたら、よろしくをお願いします。

(議長) 報道を聞いて見て驚いてるというか、良くないことについて、ルール通りしてないことについては問題があると認識しております。これは派閥の政治資金パーティーの件ということになるわけですけども、私、議長という立場で、国のことに対することはコメントを実はしにくいんですけども、当然、国の方で今刷新するために、法律改正も含めて取り組んでいただいていることが言われておりますので、それを見守る、しっかりと取り組んでいただきたいと、もうそれに尽きるわけでございます。

(質問) 人選について何か。地方にも絡む話なので、その地方議員の方も入れるべきじゃないかっていう声もあると思うんですけども。

(議長) 地方議員は、派閥とは全然次元の違う話なんですけども、地方議員が直接、派閥と関係ないということを前提に、政治資金に関する、いわゆる政党のパーティーに関与というのは、当然、議長でないときも含めてなんですけども、当然我々が党の役員ということで、積極的な協力者、賛助者を求めるのは当然です。必要なパーティー代をお預かりして、政策のお話を聞きながら意見交換をするということとあわせてお預かりしたお金を適正な政治活動に使うということになるわけでありまして。我々、当時の政党の役員からすれば、一生懸命党に対して努力するというのは、それぞれの議員の判断だろうと思います。

新年の抱負について

(質問) 新年の一字はありませんね。

(議長) 新年の抱負をもとに一句ということですか。

(質問) じゃあ新年の抱負を。

(議長)もうすでにあいさつで申し上げましたとおり、大きな震災があったので、それを抜きに話ができないというのは現実ですけれども、そういうことを踏まえながら、やはり、今年は辰年ですね。それから甲という最初の年ですね。十干で最初の年ということからすると、いろんな人に聞くと、物事を計画し、充実し、成功する年になると。やはり昇り龍とか言われますけども、そんなことも含めていい年にしてほしいなというのはまずあります。この三重県においても、こうやって総合計画を着実に進めながら、議会と両輪のごとく、またいろんな対峙しながら、しっかりと県民のために、県勢発展のために、今年一年頑張ろうと年末から年始にかけて心したわけでありまして。その上で、こういうような災害が発生したということは、やはり普段から、備え、防災減災ということも含めて、普段から準備をする必要があるのかなと。加えて、やはり国の、去年も申し上げてましたように、未然防止のための防災減災への予算確保についても安定的な地方財政を確保していただきながら、少なくとも公共事業をはじめとする道路整備、またそういうような避難訓練などなどしっかりとやる必要があると重ねて思うわけでありまして。先日、南海トラフ対策の10県議会議長会というのが高知で開催されまして、この能登震災を受けて、高知県が開催県ですけども、静岡県や徳島県、和歌山県、我が三重県も含めて相談をして、高知県の黒潮町ですけども、現地に行って先進地と言われるところについて学んできたわけでありまして。特に、津波に対する避難タワーの取り組みについては、三重県もしっかりやっておりますけれども、行政職員であったり、地域の方々の自治会であったり、連携がうまくいっているという様子がかがわれますので、形だけと違って、避難訓練を必ずやると、小学生中学生の学校から避難するのを実際高台まで必ず避難する訓練をやるとか、そういうような、誰が確認をするかとか、そういうこともしっかりとやっていると様子をうかがってきました。そんなことも含めて防災・減災についても、政策としてできることをしっかりとやる。これは道路建設であったり、がけ崩れ未然防止だったりという、これは公共事業の話です。それから、やはり市町と協力を経て防災訓練をしながら、避難できるように、津波に関してはまずは避難をしてもらうということ。中長期的には、緊急ですけど耐震補強であったり海岸の耐震性を高めるとか、こんな準備を着実にやらなくてはいけないのかなと感じました。というようなことを抱負と思い、全体像幅広くなりましたけども、抱負についてはそういう両面があると。よろしく申し上げます。

- 第二県政記者クラブも含めて申し上げます -

能登半島地震について

(質問)災害に対する全国議長会の動き、義援金とかなんかそういうのは決ま

ったんですか。

(議長) 義援金につきましては、全議でまとめるということは、各県で準備と
いうか相談しながらするという過去の例を参考にしながら、今、進めておりま
す。すでに決定された県もあります。三重県は18日の日に、明後日ですけれ
ども、代表者会議で私から会議に諮って相談をさせていただき、早々に決定し、
義援金をまとめて、被災地にお届けしたいと思っております。

(質問) 要は、所属47都道府県議会がそれぞれに決めて、全議全体としては
別枠で義援金出すとかいうことではないんですか。

(議長) それはまだ聞いてませんので、そういうことになるということは今、
想定してません。もし、そういう意見があったらそれはその場で相談されると
思いますけども、今ちょっとそこは情報入ってませんので。

(質問) 東日本大震災のときに三重県議会は1人50万と記憶してますけども。
違うかもしれないですけど。その額を上回ることはないわけですよ今回は。
腹案は今のところいくつかで出てるわけですか。

(議長) 額については、当然過去の例、もうおっしゃるとおり、そういうデー
タありますので、最近では熊本県の震災、それを超えるのではないかと。東日
本には至らないのではないかなと、こんな状況だと思いますけど。

議長の任期について

(質問) どちらにしても18日に代表者で決めると。あと全議の副会長任期も
2年ですよ。その辺の関連で中森議長が県内の去年1年いたるところで、全
議の副会長は2年なので、その辺のことを考えると今年この年が変わっての5
月の役選等で、できれば信任得られるならということ、続投的な意図を示さ
れてるんですけど、これ新年にあたって、そのこのところの思いつてのは変わら
ないで新たにされたんですか。

(議長) 今、改めて任期のことについて表明するタイミングではないというこ
とです。それから、昨年の立候補の所信表明がすべてであり、その中でご質問
いただいたわけでございますので、それもそのとおりでありますので、それか
ら何ら変わってませんので、現在もその思いで、少なくともまだ半年を経過し
たばかりですし、しっかりと任期を、まず1年を全うしないといけないとい
うこと、それから先の話については、推測とかいろんな方々がいろんな意見が出

てることについては、私が今ここで評価したりということは控えさせていただきます。

文書管理について

(質問)あと、知事部局とは言いながら、知事部局のほうで12日だったかな。総務部のまた公文書紛失が11冊くらいあったとかいう話が出てるんですけど、ずっと総務部、全体取りまとめ等でそういうのがずっと一連続いてるんですけど、議会のほう、要は文書保存記録っていう決められている年限があるんだけど、それが例えば10年が勝手にいつの間にか5年になって、5年経ったら廃棄されているとか、そういうこともあるので、議会事務局のこの関係文書というのは、知事部局は前知事のときに、最終的に知事がチェックするという形に変えたんですけど、議会の場合はどうなったんですか。

(議長)今まで文書保存期限というのは、それぞれルール化されているふうに伺ってございまして、特にそれが変わったということは聞いておりませんが、当然、議会は議会で、いわゆる決裁区分がございまして、もちろん文書の保存は決まっておりますけれども、廃棄についてもその都度、確認をしながら、過去の、知事部局ですけど、過去のいろんな反省を踏まえて、そういうことのないように、誤りのないように改められたと伺っていますので、もちろん議会事務局もそれに準拠して、間違いのないように、誤りのないように、もちろん進めていきたいと思っています。

(質問)廃棄のときに、最低限、正副議長のダブルチェックが入るということですか。

(議長)私ども正副議長といえども、そういう行政的なプロではないので、議会事務局長さんにそういうのを確認していただいて、我々は、それを報告を受けて、そうですかということを確認させていただくのが一般的かなと思います。

(質問)議長も公務員経験おありだからお分かりになると思うんですけど、議案の文言の間違いとか含めて、全体に知事部局が総務部中心に、そういう不祥事が去年1年あって、また年明けても公文書11冊紛失みたいな形が出てるわけですけど、これ全体に見て、その辺、議長として、一応三重県行政の2つ、片や知事部局、片や議会という両輪ですから、その片一方から見て、この辺はどういうふうにお考えですか。

(議長)昨年の事象の中の1つに議案間違いがありましたね。過去、議案間違

いというまでではなく、委員会であったり、書類の差し替えであったり、ケアレスミス、補強であったりしながら、これは随時よくあるというんですか、それは正しくしてもらわなあかんで、期間の範囲内で人がすれば、やはりそういうこともあるのかなと。緊張感を持ちながらやっていただいても、ミスというのはないことはない。しかし、議案の間違いというのはあってはならんと私は思っています、今回あったわけです。それで、本来でしたら間違っただ議案で審議し議決した場合どうなるのかなということ、恐ろしい結果になるわけでございます。間違っただ内容は、その三角あるかないかという内容でございますけれども、そんな簡単なものではないと私は思っていますので、厳しく知事部局に注意をさせていただいて、二度とそういうことのないように対策を講じていただくようお願いをしたところであります。知事部局ももちろん真摯に受けとめて、いろんなチェック体制を2重、3重にしながら、二度とそういうことのないようにすると、確約をいただいたわけでございます。

(質問)ただ、少なくとも議会上程してから、日にちが経ってから、訂正に気づいたという。だから、上程した段階で当然もとの知事部局にも責任あるし、逆に言ったら、それを上程した議会にも責任があるし、あるいは県民の知る権利の代表者であるメディアにも責任があると思うので、3者、要するにそれなりの責任があるわけですね。それはそう思われますか。

(議長)そうですね。そのとおりです。出すほうも責任ありますし、受けるほうも責任はあります。いずれにしても、それぞれの責任ある者が提出し確認をするということとなりまして、我々議会、議員も審議をするためには、事実関係である議案の内容が正しいかどうかというのは当然見た上で審議をしないと、間違っただものを審議するのは意味がないわけですので、そういう議会はチェック機関と言われてはいますが、そのチェック機関の素材となることが間違っただいれば、チェックしようがないということになるわけでございますので、少なくとも議会事務局も、幸いに見つけてくれたと、私は思います。よく見つけてくれたなど。こんなこともあります。いずれにしたって、出すほうは第一義的に責任を感じていただかなくてはいけないと。我々議会も当然そういうことを受けて、チェックをさせていただく立場からも2重、3重のチェックをしながら、正しいデータ、正しい数値をもって、審議し議決をしていかなくてはならないと、こういうことに尽きるわけでありまして。

(質問)款項目節の節の部分についての間違い等なら、これはなかなか気づかないとかいうのはあるけど、少なくとも逆さ鱗がつく、つかないぐらいのことは、本来的に1年生議員でも気づく話なので、逆に言ったら、そこも議会の側

もある程度慣れっこになっていて油断があったというふうに感じますけど、そうはお感じにならないですか。

(議長) 私だけではないんでしょうけども、見慣れているとか、見たことあるとか、いつもこうだとかということが先入観というのはやっぱりミスの起因する1つではないかなと、議員としてもね。それは職員も一緒だと思います。当然のように、当たり前のように、いつものようにということだけが先走っているから、単なる去年の文書をちょっと日付直しただけやんかみたいところが現実にあたりするわけです。そういうことはいけないと。データというのは、そういうのを活用するのは大いに結構ですけども、しっかりと今作った文書は今の時点の内容にしないといけないというのはあります。三角というのは不思議な、なんかもう少し、せっかくこのIT十分できているのに、そんなことぐらいできへんのかなというふうに、ちょっと笑い話ですけども、そういうミスが発生してはいけませんね。今は手計算でそろばんをはじいているわけではないので、全てが自動というか、自動計算されている、エクセル計算をしているわけですので、ああいう三角というのは驚きましたね。そういうミスが発生したということ自体がびっくりしました。

派閥の政治資金パーティーを巡る問題について

(質問) あと派閥の政治資金パーティーですけど、これって例えば自民党、全部自民党さんだけじゃないと思うんですけど、県連自身で選挙前にその政治資金パーティーってのはやったことなかったですか。

(議長) 選挙前というのはちょっと微妙な表現ですのでそれは置いておいて、毎年とは言いませんけども、必要に応じて政治資金パーティーを、私の所属している自民党三重県連も、過去もやっていますし、また今年もやるのではないかなというのは、聞いてますというぐらいです。

(質問) だから、党県連でやられるものと、あと党所属の国会議員の方の資金パーティーに、その券を自民党の県議の方たちが割り当てられて売ってるとかということもあるわけですね。

(議長) まず党の話の先に説明すると、この場所で詳しく私が説明するのはいかなものかなと思うんですけども、そういう話ですので、今までは当然ルールどおり、党が計画したものに対して、それぞれの党を構成している県議会議員が、役員が、それについて協力するということです。当然、計画枚数があったり、必要枚数があったり、当時から、もっと頑張った方には、交付金として

交付されるということもありますけれども、すべては振込ですので、出す方が出ますので、入る方も当然、毎年、それぞれの入った政治団体が報告するということです。いつも、必ず県連とその地域支部と整合して確認をされていますので、記載漏れとかはないです。もう1つの話は、それぞれの国会議員がそれぞれの政治資金パーティーをされるというお話につきましては、これは県連に関係ありませんので、国会議員の秘書たちが、いろんな手配をされているということだと思います。私にも、協力してほしいという要請があれば、協力できることは協力することもあるぐらいで、交付金とかは一切ございません。私に関してはございません。ゼロです。交付金はなしと。

（質問）要するに県連でやる政治資金パーティーみたいなやつも、先ほどのお話によると、割戻金、還流金みたいものはあるけども、それは全部直接振込だから、それが記載漏れはないということですね。

（議長）はい。

（質問）あと、自民党所属の国会議員の方のパーティーのときに、そこに同じ選挙区の選出の県議員の方たちが協力することもあるけども、そこで割戻金は、中森さんに関してはなかったということですね。

（議長）はい。

（質問）でよろしいですね。

（議長）そうです。

（質問）全体に、多分自民党だけじゃなくて、民主党さん、野党もそういうことがあったと思うんですけど。政治の世界全体として、こういう今の仕組み、自民党は一応刷新本部みたいな形で考え直そうとしてますが、その辺については、中森議長はどう思われますか。

（議長）政党活動であったり、その政党の支部活動であったり、それから政治活動については、必要な経費というのは当然、捻出する必要があります。我々党員を含めて、党の役員も含めて、必要な会費として納める、党費として納めるということが、基本となります。多くの党員から年会費を頂戴して、それについては、一般的な運営をその範囲内でやっていただいと理解しております。政治資金パーティーについては、これはそれだけでは十分な政治活動がで

きないので、2年に1回であったり、場合によっては毎年であったりということが、シーズンシーズンに応じて、必要に応じて、政治資金パーティーをされるということです。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 今回の問題ですか。

(質問) 別に自民党だけじゃなくて、安住さんの問題もあるんだけど、全般に政治の世界としてそれがあるじゃないですか、システムとして。それについてはどう思われますか。

(副議長) 私やっぱり政治と金の問題って、政治不信の一番大きな部分の1つだと思ってるんです。なのでこれは、不正は絶対あってはならないし、今回のことを、またもやなんですけれども、今回のことをきっかけにして、その辺はしっかりと是正するように、やっていくべきだと思います。法改正が必要であれば、それも含めてしていく必要があると思っています。政治への不信があるようでは、これからいろんな新たな時代に突入していくときに、そのあたりの不信があったら、信なくば立たずで駄目だと思ってるので、政治と金の問題は、しっかりと今回のことをきっかけに解決していく必要があると思っています。

議長・副議長の会派籍について

(質問) 三重県議会の場合、議長副議長になられても、一応会派籍は抜かれないうので、そこに絡んではるから逆に今お聞きしたんですけど。会派籍を抜いたら、私も別に聞く資格がないので、要件がなくなるから聞かないんですけど。前からずっと聞いてるんだけど、岸田さんも一応派閥籍は首相の間は抜くというふうにおっしゃってるんですけど、三重県議会において、議長ないし副議長になったときに、会派の籍を抜くとかいうことのお考えはないですか。議長からお願いします。

(議長) 政党の役員とかは避けるということで、過去から退いたりしてます。それから、会派を抜けるということについては、過去の前例が今まで聞いてませんので、それは抜ける必要はないと認識しております。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 私も抜ける必要はないと思っておりますが、今年は議長とともに、議長副議長の立場で1年活動させていただいています。

(質問) ただ、県内の市議会で、例えば伊勢市議会みたいに正副議長になったときは、会派の籍を抜いてるんです。例えば三重県議会でも、中村進一さんが議長のとときに、会派の要望と一緒に議長がついてきて、真ん中に座って説明してるという状態があったんで、そういう違和感があるじゃないですか。だから、誤解を避けるために、本来的には正副議長になられたその期間は、会派を抜かれた方が県民には分かりやすいんじゃないかと思うんですということなんです。

(議長) ごもったもなご意見ですけども、少なくとも、会派からの要望をするときは、我々正副は同席しないのがいいと思います。

(質問) それでいいですか。

(議長) 同席しないほうがいいと思いますよ。

(質問) 副議長は。

(副議長) そういえばこの前、端っこの席に同席したなということを今思い出しております。ただ、ご要望を受けるときとか、そういうときは、会派の方もきちっと理解をして、私を会派の活動から抜くような形で、今年1年過ごしてまいりました。ただこの前、知事の要望のとときに、私一番端っこのところに同席しとったなっていうのを、今思い出しまして、すべきではなかったかなと今思っているところです。

(議長) 最後に。新年、被災された方々にしっかりと寄り添うということと、それから今年、三重県は過去から観光にしっかりと力を入れていこうということのを思いながら、新年の一句にまとめたわけです。いろいろと文言は工夫したんですけども、そうなかなか私の力量ではいいのはいないんですけども。まずこれね、これ分かりますか、三重県から能登半島。観光ルートとして、昇龍道というルートがあって、三重県は龍の足の方、尻尾の方ですけども、手があって、顔は能登半島ということで、観光ルートとするこういうキャンペーンが開かれて、これは一般的に観光会社などは比較的これを活用してるというか。この際、能登半島を応援するために、足元である三重県がしっかりと支えていかなくてはいけないのかなと、こんな気持ちがまず思いました。元日早々にあった震災

を受けて、しっかりと乗り越えていただきたい。一緒に乗り越えていこうじゃないかと。加えて昇龍道、観光政策に三重県と石川県、北陸地方に、そういう意味で一体となって乗り越えていこうという思いで、「元日の震災乗り越え昇龍道」ということで整理させていただきましたので、気持ちがいろいろこもりながら、させていただきました。

(質問) もう1回読んでくれますか。

(議長) 「元日の震災乗り越え昇龍道」そんなことで、やっぱり能登半島に寄り添った、この1年乗り越えて、三重県から石川県に達する観光ルートも、何とか再建できるようになってほしいなという思いであります。

(質問) 考えてもらったきっかけは何ですか。また聞かれると思って考えてもらったってことですか。

(議長) 年末に某者から、やはりこれは準備していただいた方がいいんじゃないかというのが、私は感じてまして。新年早々もしっかりとスタートできるいい年になってほしいなという気持ちがあったんですけども、震災をしっかりと乗り越えていかななくてはいけないということが、この句でご理解いただければと思います。以上でございます。ありがとうございました。

(以 上) 11時21分 終了